



なし
黒斑病、黒星病、輪紋病、
うどんこ病に有効。



みかん
灰色かび病、貯蔵障害(青かび病、緑かび病、黒腐病、軸腐病、白かび病)に有効。
かんきつ
幹腐病に有効。



おうとう
灰星病に有効。



もも
灰星病、黒星病、
ホモブシス腐敗病に有効。

効きめと使いやすさで選ぶなら!

実力の一一本! 「ベルクートフロアブル」

ミツバチ・マルハナバチに適用濃度で影響なし!
無人航空機でも散布できます。



アスパラガス
斑点病、褐斑病に有効。



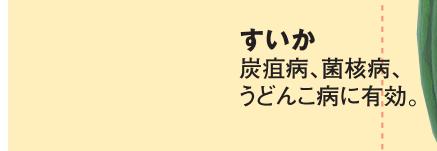
トマト・ミニトマト
灰色かび病、葉かび病に有効。



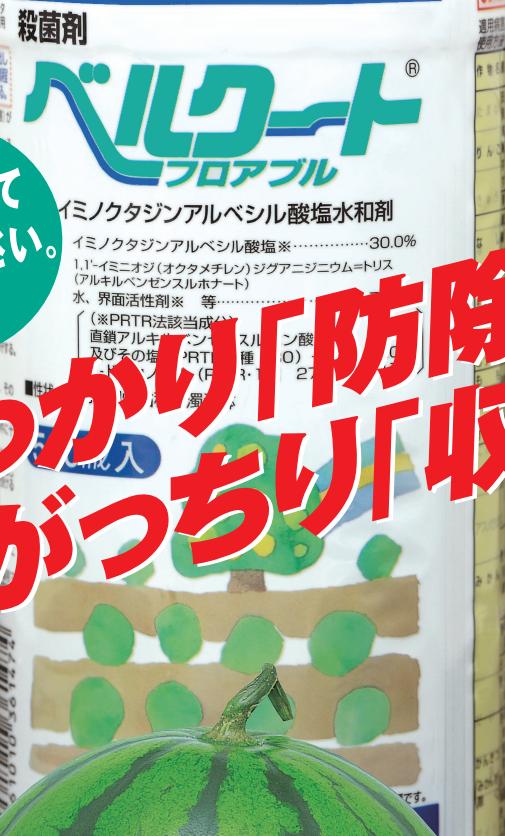
りんご
斑点落葉病、黒星病、褐斑病、
すす点病、すす枯病、輪紋病、
黒点病、うどんこ病に有効。



きゅうり
灰色かび病、うどんこ病、
菌核病に有効。



すいか
炭疽病、菌核病、
うどんこ病に有効。



しっかりと「防除」
がっちり「収穫」

なす
灰色かび病、うどんこ病、
すすかび病、黒枯病に有効。



にんじん
黒葉枯病、うどんこ病、
斑点病に有効。



たまねぎ
灰色かび病、灰色腐敗病
に有効。



やまのいも
葉渇病、炭疽病に有効。

茶
炭疽病、輪斑病、
新梢枯死症に有効。

■適用病害と使用方法

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数、本剤及びイミノクタジンを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期*	総使用回数*		使用方法
					本剤	イミノクタジン	
りんご	斑点落葉病、黒星病、輪紋病 褐斑病、すす点病、すす斑病 黒点病、うどんこ病	1,000~1,500	200~700	前日 14日 30日 3日 30日 7日 3回 2回 3回 前日	6回 (開花期以降 散布は3回)	8回 (液剤及び水和剤は 合計6回 (開花期以降は3回) 塗布剤は2回)	散布 無人航空機による散布
	黄麻病、モニリア病	1,000			5回	5回 (液剤は1回)	
	黒斑病、黒星病 輪紋病、うどんこ病	1,500			3回	3回	
	小粒核果類 (うめ、すももを除く)	灰星病			30日	3回	
	すもも	黒星病、灰色かび病 すす斑病			3日	3回	
	うめ	黒星病、黒星病 輪紋病、うどんこ病			30日	3回	
	おうとう	灰星病			7日	3回(休眠期は1回)	
	もも	黒星病、黒星病 ホモブシス腐敗病			2回	2回	
	ネクタリン	そうか病 貯蔵病害(軸腐病)			3回	3回	
	みかん	灰色かび病、貯蔵病害 (青かび病、緑かび病、 黒腐病、白かび病)	1,000~2,000		前日	無人航空機による散布	
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病、貯蔵病害 (青かび病、緑かび病、 黒腐病、白かび病)	10	4~5	200~700	2回	2回	散布
	灰色かび病、貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	20	8~10		無人航空機による散布	無人航空機による散布	無人航空機による散布
	そうか病、幹腐病 貯蔵病害(軸腐病)	1,000	2回		2回	散布	
	灰色かび病、貯蔵病害 (青かび病、緑かび病、 黒腐病、白かび病)	1,000~2,000	無人航空機による散布		無人航空機による散布	無人航空機による散布	
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	10	4~5		2回	2回	無人航空機による散布
くり キャラ レタス	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	20	8~10	100~300	14日	14日	散布
	実炭疽病	200~700	28日		3回	散布	
	菌核病	1,000	14日		3回	散布	
	黒葉枯病、うどんこ病 菌核病	8	2		14日	5回 (種子粉衣は1回 無人航空機散布は2回)	無人航空機による散布
	斑点病	8	2		2回	2回	無人航空機による散布
たまねぎ	小菌核病、灰色かび病 灰色腐敗病	8	1.6~3.2	100~300	前日	5回	5回
	灰色かび病	1,000	7日		4回	4回	
	かぼちゃ うどんこ病	1,000~2,000	前日		5回	5回	
	すいか 炭疽病、うどんこ病 菌核病、つる枯病	1,000	7日		5回	5回	
	メロン 菌核病、うどんこ病、つる枯病	4,000	前日		3回	3回	
	にがうり うどんこ病	2,000	前日		7回	7回	
	きゅうり 炭疽病、うどんこ病、菌核病、 褐斑病、炭疽病、黒星病	2,000	前日		3回	3回	
	なす 灰色かび病、うどんこ病 すすかび病、黒枯病、褐紋病	2,000	育苗期(定植前)		2回	2回	
	トマト 炭疽病、葉渋病、 うどんこ病、すすかび病	2,000~4,000	前日(生育期)		5回 (育苗期は5回 本圃では5回)	無人航空機による散布	
	ミニトマト 斑点病	4,000	育苗期(定植前)		5回	10回 (育苗期は5回 本圃では5回)	
いちご	炭疽病、輪斑病、うどんこ病	1,000	100~300	前日	5回	5回	無人航空機による散布
	うどんこ病	2,000~4,000			7日	3回	無人航空機による散布
	炭疽病、炭疽病、黒斑病	2,000			7日	3回	無人航空機による散布
	灰色かび病、炭疽病、黒斑病	2,000			7日	3回	無人航空機による散布
	葉渋病	12	3		7日	3回	無人航空機による散布
やまのいも	炭疽病、葉渋病	1,000	100~300	前日	5回	5回 (種いもへの処理は1回 無人航空機散布は3回)	無人航空機による散布
	青かび病	200	—		植付前	1回	1回
茶	炭疽病、新梢枯死症 輪斑病	1,500~2,000	200~400	(摘採)7日	2回	2回	散布
	斑点病、褐斑病	1,000	100~300		7日前*	5回	5回
アスパラガス	斑点病	8	1.6	発病前~発病初期	8回	8回	無人航空機による散布
	褐色斑点病、灰色かび病	1,000	100~300		植付前	1回	1回
りんどう	葉枯病、花腐菌核病	1,000~1,500	300	前日	8回	8回	散布
	青かび病	100	—		植付前	1回	1回
アイリス	青かび病	200	—	前日	3回	3回	10分間球根浸漬 30分間球根浸漬
					7回	7回	常温煙霧

※収穫開始後は使用しない。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

※本資料は2025年12月現在の登録内容に基づいています。 2566(26-1)

△効果・葉害等の注意

- 使用の際は、容器をよく振ってから使用してください。
- 用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
- イミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内での使用してください。
- 5℃以下では増粘あるいは固化により、容器から取り出しがにくくなることがあるので、50℃以上の湯に容器の肩まで浸し、1時間以上経過した後、室温まで放置し、よく振ってから使用してください。
- おとうしに使用する場合、着色期の散布では葉害(着色障害)が生じるおそれがあるので、使用しないでください。
- りんごの落花直後から落花後25日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、かかるないように注意してください。
- 西洋なしの品種ル・レクチエではさび果を生じるので、使用しないでください。
- 缶桃14号などの缶詰用品種のものでは葉に薬斑を生じるので、かかるないように注意してください。
- かきの品種西村早生では葉に薬斑を生じるおそれがあるので、かかるないように注意してください。
- 幼果期のメロン、ばらに対して葉害を生じるおそれがあるので、かかるないように注意してください。
- キャベツを使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認してください。
- やまと(あかご)に使用する場合、種いも(やまと)を浸漬処理してください。
- チューリップに使用する場合、花弁に葉害が生じるおそれがあるので、出蕾期以前に使用してください。
- 蚕に対して毒性があるので、桑にかかるないように注意してください。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節してください。
- 無人航空機による散布を行う場合には、次の注意事項を守ってください。
 - ①散布機種の散布基準に従って行ってください。
 - ②散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中に薬液の漏洩がないよう、事前に機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう、散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- 常温煙霧処理する場合には、次の事項に注意してください。
 - ①専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - ②作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
- 使用方法などを厳守してください。特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 薬液調製時及び使用の際は、保護メガネ、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は、直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼(うがい)をするとともに、衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯してください。
- 常温煙霧の中はハウス内へ入らないでください。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。

水産動植物への影響:水産動植物(甲殻類・藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川・養殖池等に飛散・流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意して使用してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管:密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に保管してください。



詳しい使い方、
登録内容とSDSは
こちらから。